

序 文

2023年5月、2020年の年初から日々の生活に制限を加え続けた新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に変更された。そのこともあり、今年度のはじめから、大学での活動はほぼすべて対面方式に戻された。

熊本大学考古学研究室恒例の夏の発掘調査実習も、阿蘇市平原古墳群を対象に、地元山田地区の公民館をお借りして4年ぶりに合宿で実施することができた。19日間、学生たちと教員の私が寝食を共にした。コロナ禍の3年間で学生たちのあいだから合宿調査のノウハウがすっかり失われ、また長期間の合宿がはじめての学生たちばかりであったから、大部屋でのプライバシーのない共同生活は苦痛かもしれないととても心配したのだが、三食の準備、洗濯、入浴、夜のミーティングなどといった合宿での活動はほぼ滞りなく進化したように思う。といっても、それは教員だけの思いであって、学生たちは苦痛であっても口に出せなかっただけなのかもしれないが。でも、地域の方々とのふれあいもあり、学生たちの社会性の向上には少しは役立っているのではないかと感じている。10月からの報告書作成作業においても、この数年と比べて研究室としての一体性が高いように感じる。

報告書作成作業では、平原古墳群以外に、高森町上の園古墳群出土として保管されていた土器も対象にした。その整理過程で、行方不明となっていた阿蘇市長目塚古墳出土土器が混入していることに気付いた。このこと自体も驚きなのだが、さらに長目塚古墳出土と判断される土器のなかに、朝鮮半島系土器が含まれていることも明らかとなったのである。実際の考古資料に触れ、よく観察して図化し、その特徴を的確に理解することで、新たな事実の発見につながる。この面白さ、醍醐味を、今回の整理作業に携わった学生たちが少しでも感じてくれたらとてもうれしい。教員の私一人だけが興奮しているのではないことを願う。また、今回の出来事は、古くに発見、報告された資料であっても、それを新たな異なった目で調査することの大切さを教えている。卒論や修論に取り組む学生たちに、資料調査の重要性を繰り返し伝えている教員の意図の一端はここにある。

今回、合宿形式で平原古墳群の発掘調査を実施するにあたり、阿蘇市山田地区の皆様には本当にお世話になった。コロナ禍明けの間もない時期であったにもかかわらず、とてもあたたかく私たちを迎えて下さった。阿蘇市教育委員会をはじめとする関係諸機関の皆様にもさまざまにご配慮いただいた。そうしたお力添えのおかげで、何とか無事に合宿調査を終えることができた。また、上の園古墳群に係る資料整理においては、保管者の含藏寺、そして高森町教育委員会から多くのご配慮を頂戴した。そうしたすべての方々から心からの感謝の念を捧げたい。本当にありがとうございました。

ところで、種々の学務を抱えることになり、次年度以降しばらくは、私が主担当となる夏の発掘調査実習は実施できず、代わる教員が新たなフィールドに挑む予定である。私も、時機をみて、平原古墳群での調査、研究を再開できればと思っている。今後もかわらぬご指導とご支援をお願いしたいと思う。

2024年1月27日

杉井 健

例 言

1. 本書は、熊本大学文学部考古学研究室による考古学調査の報告書である。
2. 本書は2部構成をとる。第1部では平原古墳群の測量調査(第7次調査)・発掘調査(第8次調査)の成果、第2部では上の園古墳群出土として高森町含蔵寺に保管されていた土器について報告する。
3. 第1・2部それぞれの遺跡・調査についての詳細は、以下の通りである。

【^{ひらばる}平原古墳群】

- (1) 平原古墳群は、熊本県阿蘇市山田字平原に所在する。
- (2) 第8次調査の調査期間は、2023年8月18日～9月5日の計19日間である。
- (3) 調査は熊本大学文学部考古学研究室を主体とし、阿蘇市教育委員会の協力を得て実施した。
- (4) 調査担当者は、杉井 健(熊本大学大学院人文社会科学部教授)と向井悠里子(同社会文化科学教育部博士前期課程1年生)である。
- (5) 平原古墳群に対する考古学的調査は、今回の調査以前にも実施されている。それを含めて、次のように調査次数を整理する。

第1次調査	調査年：1981～1983年
	調査内容：1981年 1号墳の発掘調査 1982・1983年 2～4号墳(4号墳は現在の6号墳に一致)の測量調査
	調査主体：1981年 熊本県教育委員会 1982・1983年 熊本短期大学(現熊本学園大学)文化財研究会
第2次調査	調査期間：2011年10月14・16・23日、11月1～7日、2012年4月29・30日
	調査内容：6・7号墳の測量調査
	調査主体：熊本大学文学部考古学研究室
第3次調査	調査期間：2012年8月19日～9月15日
	調査内容：6号墳の発掘調査
	調査主体：熊本大学文学部考古学研究室
第4次調査	調査期間：2013年8月18日～9月14日
	調査内容：6号墳の発掘調査
	調査主体：熊本大学文学部考古学研究室
第5次調査	調査期間：2014年8月18日～9月12日
	調査内容：6号墳の発掘調査および2・3号墳の測量調査
	調査主体：熊本大学文学部考古学研究室
第6次調査	調査期間：2019年8月21日～9月13日
	調査内容：3・6号墳の発掘調査および8号墳の測量調査
	調査主体：熊本大学文学部考古学研究室
第7次調査	調査期間：2022年10月11～13日
	調査内容：9～11号墳の測量調査
	調査主体：熊本大学文学部考古学研究室
第8次調査	調査期間：2023年8月18日～9月5日
	調査内容：3号墳の発掘調査
	調査主体：熊本大学文学部考古学研究室
- (6) 本書におけるレベル高はすべて海拔を表し、方位は国土座標(2系)の北を示す。
- (7) 土層名の色調は『新版標準土色帖』による。
- (8) 第1図は国土地理院発行の5万分の1地形図(八方ヶ岳・菊池・御船・宮原・阿蘇山・高森)を、第4図2は国土地理院ホームページ電子国土Webの標準地図(<https://maps.gsi.go.jp/#18/>)を、第5図は森林総合研究所ホームページのCS立体図(<https://www2.ffpri.go.jp/soilmap/index1.html?page=3>)を複製したものである。
- (9) 調査および合宿、整理作業の実施にあたっては、以下の諸氏・諸機関からご協力とご援助を賜った。
宮本利邦(阿蘇市教育委員会)、佐伯俊二、小西 誠、日野満司、大倉孝行、村上邦博、阿蘇市山田地区の方々、阿蘇市山田公民館、阿蘇市教育委員会、熊本県教育委員会、村上浩明・田中健一郎(株式会社とっぺん)
- (10) 出土土器の検討では、以下の諸氏からご教示を賜った。
寺井 誠(大阪歴史博物館)、石木秀啓・上田龍児・澤田康夫・舟山良一・山元瞭平(大野城心のふるさと館)、木村龍生(熊本県教育庁文化課)

(11) 出土遺物は熊本大学文学部考古学研究室にて保管している。

(12) 調査参加者は以下の通りである。

杉井 健 (熊本大学教員)、向井悠里子 (同大学院社会文化科学教育部博士前期課程1年生)、池上愛菜・栗木乃愛・福本翔太・本多美羽 (同文学部3年生)、加藤凜太郎・坂尻萌花・自見祐花・田尾俊生・辻田仁慈・三浦大輝・三浦希実・若藤佑季 (同文学部2年生)

^{かみ} ^{その}
【上の園古墳群】

(1) 上の園古墳群は、熊本県阿蘇郡高森町高森字上園に所在する。

(2) 上の園古墳群は1～4号墳からなり、1～3号墳は旧高森中学校新築工事に伴って1948・1949年に、4号墳は畑地耕作に伴い1973年に発見・調査された。その際出土したとされる遺物は、現在高森町高森所在の含藏寺にて保管されている。

(3) 上の園古墳群については、これまでに以下の文献で言及されている。

岩下時雄 1975『高森町教育誌 社会教育・社会体育の部』高森町教育委員会

今村俊男 1979「上世」『高森町史』高森町：pp. 67-114

今村俊男 1980「高森町文化財資料 (第一)」『高森町史Ⅱ－ふるさとの回顧と展望－』高森町：pp. 232-269

(4) 今回報告するのは、上の園古墳群出土として含藏寺に保管されている遺物のうち、土器のみである。ほかに鉄製武器・馬具・農工具有るが、今回は扱わなかった。

(5) 第18図は国土地理院発行の5万分の1地形図 (阿蘇山・高森) を複製したものである。

(6) 土器の検討では、以下の諸氏からご教示を賜った。

石木秀啓・上田龍児・澤田康夫・舟山良一・山元瞭平 (大野城心のふるさと館)、木村龍生 (熊本県教育庁文化課)、松永悦枝 (奈良文化財研究所)

(7) 整理作業の実施にあたっては、以下の諸氏・諸機関からご協力とご援助を賜った。

井鍋誉之 (高森町教育委員会)、本田裕樹 (含藏寺)、含藏寺、高森町教育委員会

(8) 整理作業者は以下の通りである。

杉井 健 (熊本大学教員)、向井悠里子 (同大学院社会文化科学教育部博士前期課程1年生)、松田響 (同文学部4年生)、池上愛菜・栗木乃愛・福本翔太・本多美羽 (同文学部3年生)、加藤凜太郎・坂尻萌花・自見祐花・田尾俊生・辻田仁慈・三浦大輝・三浦希実・若藤佑季 (同文学部2年生)

4. 本書の編集は杉井 健の監修を受けて向井悠里子が担当した。執筆分担は目次および各文末に示した。

本文目次

第1部 平原古墳群調査報告5	1
一 位置と環境	栗木乃愛 3
1. 地理的環境	3
2. 歴史的環境	4
二 調査経過	6
1. 過去の調査（第1～6次調査）	加藤凜太郎 6
2. 昨年度および今年度の調査（第7・8次調査）	杉井 健 7
三 平原古墳群における古墳の分布	杉井 健 12
四 3号墳の発掘調査	19
1. 墳丘の現状	自見祐花 19
2. 第6次調査（2019年度調査）の調査所見とその訂正の可能性	田尾俊生 19
3. トレンチの設定	自見祐花 21
4. 調査の所見	21
(1) 南西トレンチ	本多美羽 21
(2) 第6次調査（2019年度調査）西トレンチ調査所見の修正	本多美羽 24
(3) 東トレンチ	向井悠里子 24
5. 小結	向井悠里子 25
五 出土遺物	28
1. 土師器	若藤佑季 28
2. 須恵器	坂尻萌花 30
3. 石材	三浦大輝 30
4. 小結	福本翔太 31
(1) 土師器の時期	31
(2) 須恵器の時期	32
(3) 3号墳の築造時期	33
六 まとめ	向井悠里子 34
第2部 上の園古墳群出土として保管されていた土器整理報告	37
一 位置と環境	三浦希実 39
二 上の園古墳群の概要と今回の報告に至る経緯	杉井 健 40
1. 上の園古墳群に関する過去の調査成果	40
2. 上の園古墳群出土遺物保管場所の変遷	42
3. 今回の報告に至る経緯	43
三 整理報告	44
1. 土師器	(高坏) 辻田仁慈・(蓋) 池上愛菜 44
2. 須恵器	池上愛菜 44

3. 阿蘇市長目塚古墳前方部出土土器の混入	池上愛菜	50
(1) 所在不明となっていた長目塚古墳前方部出土土器		50
(2) 長目塚古墳出土土器との比較検討		51
4. 火焰形透孔を有する土器	池上愛菜	53
四 まとめ	松田 響	54

図 版 目 次

平原古墳群

図版 1	1	3号墳の現状（西から）
	2	3号墳の現状（東から）
図版 2	1	9号墳の現状（写真中央の伐採枝のある箇所，奥の円丘は10号墳）（東から）
	2	10号墳の現状（東から）
	3	11号墳の現状（東から）
図版 3		南西トレンチ全景（南西から）
図版 4	1	南西トレンチ南側壁断面（西から）
	2	南西トレンチ北側壁断面（南から）
図版 5	1	南西トレンチ石材集積部（検出時）
	2	南西トレンチ石材集積部（一部石材取り上げ後）
	3	南西トレンチ土師器出土状況（1）
	4	南西トレンチ土師器出土状況（2）
図版 6		南西トレンチ（一部石材取り上げ後）オルソ画像
図版 7	1	3号墳墳丘と東トレンチ（東から）
	2	東トレンチ全景（東から）
図版 8	1	東トレンチ北側壁断面（南東から）
	2	東トレンチ石材集積部
図版 9		東トレンチオルソ画像
図版 10		3号墳出土土師器
図版 11	1	3号墳出土須恵器（外面）
	2	3号墳出土小型丸底壺
	3	3号墳出土石材（1）
	4	3号墳出土石材（2）
図版 12	1	3号墳出土須恵器（内面）
	2	3号墳出土須恵器5の調整痕（左：外面，右：内面）
	3	3号墳出土須恵器6の調整痕（左：外面，右：内面）

上の園古墳群

図版 13		上の園古墳群出土として高森町含藏寺に保管されていた土器
図版 14		須恵器甕

- 図版 15 1 須恵器蓋坏、高坏蓋・坏部、甕
 2 須恵器甕（1）
 3 須恵器短頸壺
 4 須恵器甕（2）
 5 須恵器高坏脚部（1）
 6 須恵器高坏脚部（2）
- 図版 16 1 須恵器提瓶
 2 土師器高坏脚部
 3 土師器蓋
- 図版 17 1 須恵器短頸壺 11 の内面
 2 須恵器高坏脚部 5 の破断面と穿孔箇所
 3 須恵器高坏脚部 5 の火焰形透孔（1）
 4 須恵器高坏脚部 5 の火焰形透孔（2）

挿 図 目 次

- 第 1 図 阿蘇地域の地形と平原古墳群の位置 ……（安田編 2013 より） …… 3
- 第 2 図 南西トレンチ発掘調査風景 ……（杉井撮影） …… 11
- 第 3 図 現地説明会風景 ……（自見撮影） …… 11
- 第 4 図 平原古墳群における古墳分布図の比較 ……（杉井作成） …… 12
- 第 5 図 CS 立体図でみた平原古墳群の古墳分布 ……（杉井作成） …… 13
- 第 6 図 平原古墳群南尾根グループ測量図 ……（與嶺・入江編 2015 より） …… 15～16
- 第 7 図 平原古墳群北尾根グループ測量図 …… …… 17～18
- 第 8 図 2・3号墳丘測量図（上：3号墳，下：2号墳） ……（與嶺・入江編 2015 より） …… 20
- 第 9 図 3号墳トレンチ配置図 ……（杉井作成） …… 21
- 第 10 図 西トレンチ平面図・断面図（第 6 次調査（2019 年度調査）の成果） ……（本多作成） …… 22
- 第 11 図 南西トレンチ平面図・断面図 ……（本多作成） …… 22
- 第 12 図 東トレンチ平面図・断面図 ……（向井作成） …… 23
- 第 13 図 3号墳の各トレンチで確認された墳端位置 ……（杉井作成） …… 26
- 第 14 図 3号墳出土土師器実測図 ……（若藤作成） …… 28
- 第 15 図 3号墳出土須恵器実測図 ……（坂尻作成） …… 29
- 第 16 図 3号墳出土石材実測図（1） ……（福本作成） …… 30
- 第 17 図 3号墳出土石材実測図（2） ……（三浦大作成） …… 31
- 第 18 図 上の園古墳群の位置 ……（三浦希作成） …… 39
- 第 19 図 上の園古墳群 1～4号墳の位置関係およびその埋葬施設略図 ……（杉井作成） …… 42
- 第 20 図 上の園古墳群 1～3号墳の出土遺物略図 ……（杉井作成） …… 43
- 第 21 図 土師器実測図 ……（池上・辻田作成） …… 44
- 第 22 図 須恵器実測図（1） ……（池上・加藤・松田・三浦希・向井作成） …… 45

第23図 須恵器実測図(2)	(池上・加藤・辻田・三浦希・向井作成)	47
第24図 長目塚古墳出土土器と本書報告土器の比較	(池上・松田作成)	51
第25図 火焰形透孔を持つ土器の類例	(池上・向井作成)	53

表 目 次

第1表 平原古墳群基準点の現場座標(1)	(杉井作成)	8
第2表 平原古墳群基準点の国土座標(1)	(杉井作成)	8
第3表 平原古墳群基準点の現場座標(2)	(杉井作成)	9
第4表 平原古墳群基準点の国土座標(2)	(杉井作成)	9
第5表 3号墳出土土師器一覧表	(福本作成)	33
第6表 3号墳出土須恵器一覧表	(福本作成)	33
第7表 上の園古墳群1～4号墳出土遺物に関する記載内容の整理	(杉井作成)	41
第8表 土師器一覧表	(池上・辻田作成)	49
第9表 須恵器一覧表	(池上・辻田作成)	49